第13回協議会を開催しました

碩田中学校区
適正配置地域協議会
だより

第13号
平成25年11月

十月二十九日（火）の午後六時三十分から、荷揚町小学校体育館において第十三回の協議会を開催しました。

本協議会での協議も意見の取りまとめの段階に差し掛かってきており、冒頭の吉田会長のあいさつでは、「協議会も今日を含めて残り三回となり、協議会の皆さんの心が一つになれるような取りまとめを行っていきたい」との言葉がありました。

意見を取りまとめるうえで、新設校の位置に関しては、委員の皆さんが議論を尽くしたと言えるようにしたいとの声がありました。そこで、今回の会議では、これまでの協議の結果を踏まえ、新設校の位置に関する最終の意見発表の場として、各候補地二十分程度の時間を設定し協議が行われました。（詳細は二面に記載しています。）

次回は
十一月二十六日開催

第十四回地域協議会は、十一月二十六日（火）の午後六時三十分から午後八時三十分まで、中島小学校体育館で開催します。

続いて、協議会としての報告書を大分市教育委員会に提出するうえで、新設校の位置についてどのように取りまとめるのかという、意見の取りまとめ方について協議が行われました。その中で、「各校区とも自身の校区に新設校を設置したいとの考え方に変わりがない。三候補地併記とせざるを得ないのではないか」との意見がありました。三候補地併記としたうえで、優先順位をつけることに対し活発な意見が交わされましたが、終了時間が迫ってきたこともあり、意見の取りまとめ方について会長・両副会長と事務局で協議し、次回に取りまとめた内容について協議することが確認され、閉会となりました。（詳細は三面に記載しています。）

3候補地に新設校を建設した場合の意見について

※発言内容については、紙面の都合で要約しています。ご了承ください。

＜荷揚町小学校区の意見発表＞

○荷揚校区としては学校環境の中での児童の生命・安全を最優先に考える。津波対策として登下校中を問題点としているが、荷揚校区周辺には高層の公共建築物等があり、登下校中の児童の安全が守られると思う。

○荷揚町小校地を新設校にした場合、住吉小校地に土石を高く盛り上げ「命山」を築けば、避難タワーより半永久的であり面積も広く多くの人々の命を救える。日常的にも公園として活用でき財政効率も高いと思う。

○今の住吉川の堤防では津波を防げない。碩田中が最も危険な場所にあるといえる。そこに新設校を造れば不安に思う保護者が隣接校を選択するのは必至で、コミュニティの維持も困難になると危惧される。

○荷揚町小学校地は狭いが、隣接市有地をあわせ敷地を複層にすれば運動場や校舎の用地を確保でき、工夫すれば十分対応できる。むしろ子どもの命を救うことを第一義として新設校の位置を決定すべきと思う。

○小中一貫教育に関しては連携型で十分と考える。また、碩田中学校が住吉校区にあるので、小学校を荷揚校区に立地すれば、碩田中学校区全体として位置的にバランスの良い配置になると思う。

○人口減少社会の中、全国的に都市型に移行するまちづくりがされ、大分市も中心地で安心安全な住みよいまちづくりを計画している。中心部は人口が増加しており、将来を考え荷揚校区に小学校を造るべきと思う。

＜中島小学校区の意見発表＞

○学校は子どもが日々安全で通学しやすい場所、避難場所・地域ｺﾐｭﾆﾃｨ施設でもあることから、碩田校区の中央部に必要で、また校地として特に懸念されることはなく、中島小学校地が立地条件でも最も良いと思う。

○荷揚・住吉校区は中央部から外れ通学距離が長くなる児童が増え、保護者や地域に不公平感が生じる。また、荷揚校区は多層階施設や第2運動場が必要となり、予算高騰や利便性に不都合が生じるのではと思う。

○小中一貫教育の型の比較検討をしてない時点で施設一体型の導入は拙速であり、保護者や地域の合意を得られるか疑問である。理念や手段、個別の課題の対応等ﾃｰﾏは多く、検討する時間が相当かかると思う。

○碩田中学校地では学校周辺に避難ビルがなく海や河川に近いことから津波災害の不安がある。他の校地の場合、ﾒﾘｯﾄがある反面、ﾏｲﾅｽ効果が非常に大きく、総合的に勘案すると中島小学校地にすべきと思う。

○新設校の場所によっては今後の児童数が大幅に少なくなることも危惧され、この地域の将来を担う児童の流出に歯止めをかけられる選択をしなければ、地域の活性化や発展も期待できないのではないかと思う。

○中島小は連携型で顕著な成果を挙げており、新たな施策の型を考えるよりも、子どもが安全で楽しく学校生活を送り、保護者や地域と学校が連携を密にできる場所を選定し、統合の成果を早く創出すべきと思う。

＜住吉小学校区の意見発表＞

○住吉校区の委員としては大分市民が納得できる案に税金を使うべきと考え、協議会は教育委員会に納得できる案を示し、将来を見据えた学校教育について勇気を持って発表できるように導くのが委員の役目と思う。

○人口減少社会が到来し、今後は特徴ある学校ほど生き残る傾向になると思われることから、まち全体で学校を支え、住んででも行きたい学校に変更するチャンスが、施設一体型小中一貫教育にあると思う。

○相互運営の連携教育では先生の負担が増える一方と受け止めているので、日常からｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝがとれる施設一体型であれば、一つの職員室の中で毎日交流し、時間を有効に使うことができる学校になると思う。

○小中一貫教育では先生が壁を打ち破る結束力が必要だが、声を上げにくい教育環境もある。それを解決できる学校運営、教育に打ち込める環境を保護者や地域が整え守ることが子どもへの教育に結びつくと思う。

○津波到達時間は3校区ほとんど変わりないと考える。また、大分川の堤防の第1工事や液状化の対策工事も終わり、更に5号地で堤防の工事に取りかかっており、大分県も地域に安心してもらう工事に入っている。

○碩田中学校地の中に小学校を建てれば仮設校舎が必要なく、また周辺には教育ｾﾝﾀｰや保育園、幼稚園、少し離れてグラウンドもある。小中一貫教育に相応しい地域として大分市の北の学園都市になり得ると思う。

【発表を受けての意見】

○仮に碩田中校地に建設した場合、荷揚校区の方は隣接校に行く可能性が高く、また施設一体型となれば長期の工事で、進学等を考えた時に多くの方が他の学校に行くのではないか。教育委員会は児童生徒を減らさない方向で判断しないと、碩田校区自体の児童生徒が減るに伴い教員も減り学力の低下に繋がると思う。

○意見の中で「教育委員会は今後小中一貫教育の型について比較検討を行うのか」とあったが、協議会で連携型あるいは施設一体型のどちらが良いのかと協議する予定はあるのか、教育委員会の見解を聞きたい。

●以前の会議で、型については協議会で協議すべきでないとの意見や専門家の意見を含めて慎重に協議すべきとの意見もあり、教育委員会としては協議会の意見を基に実施計画を策定する中で説明したいと思う。

○実施計画を策定する段階であれば、協力を仰ぐという程度になる気がする。やはりその前に協議会で協議し地域住民も巻き込んで話し合わないと、仮に施設一体型になれば碩田中学校の保護者も納得しないと思う。

○基本計画の中では、必ずしも連携型か施設一体型かということで、計画が策定されているわけではないと思うので、教育委員会に十分検討してほしいと思う。

○津波到達時間に3校とも差はないとの意見だが、津波は北側から襲来し住吉・中島・荷揚の順に到達することに変わりはないと思う。その意味で3校に差がないとのことは違うと思うし、子どもにとって逃げる時間が1秒でも多くあれば救われることに繋がる。また、住吉川の堤防も気になるところであり問題点ではないかと思う。

○小中一貫教育の理念としての考え方は分かるのだが、それと施設一体型はどう繋がるのか、またどのように課題が解消され、改善されるのかがよく分からない。また、他の住吉校区の委員の考え方も聞きたい。

○住吉校区は施設一体型を提案しているが、ＰＴＡの委員以外は保護者ではないことから、学校教育に関してはＰＴＡの委員に任せている。また、新設校の位置や将来像については協議会で意見を重ねた上で、最終的に教育委員会が決定すれば、住吉校区としてはそれをする以外にないと考えている。

○施設一体型となれば3小学校と1中学校が一緒になるということだが、碩田校区は賀来小中学校や照葉小中学校とは条件や地域性が違う。各小学校は大きな課題を持っており、我々素人が分からない中で論じているのではないかと危惧している。見学等を通して施設一体型が良いとの考え方は拙速ではないかと思う。

意見の取りまとめについて

※発言内容については、紙面の都合で要約しています。ご了承ください。

○3小学校ＰＴＡが主催し、合同で地域協議会の勉強会を行い、保護者からは様々な意見が出されたが、中島小として保護者たちの意見をまだまだ聞き足りていないと感じた。そこで中島小学校としては保護者にアンケートを実施し、結果をこの場で発表したいと思う。3小学校のＰＴＡ会員の意見を確認した上で、並行して取りまとめの作業を進めてほしいと思う。

○取りまとめ方について、委員ごとの意見であればなかなかまとまらないと思うので、校区ごとの意見としてまとめる必要があると思う。その際にはおそらく自身の校区内に新設校を建設するのが第1候補と思うので、最終的な取りまとめは難しいことから、第2、第3候補と順位付けた取りまとめをしてはどうかと思う。

○議論からも分かるように、結果はおそらく想像することができるので、それを取りまとめとして実施する必要があるのか疑問に思う。

○13回にわたって協議した結果、各校区とも自身の校区に新設校を建設したい考えに変わりはない。投票や多数決で決めることは協議会の性格上無理があるので、3候補地併記とせざるを得ないのではないかと思う。

○せっかく13回も協議をした中で、3候補地とも同じとするのか、それともどこか優先するところがあるのかどうか、3候補地併記は前提としながらも1番の候補地を把握したい気もする。

○他の候補地に賛否を出すことは最初から反対だが、これだけ回を重ねて論議してきたので、新設校がどこに決まっても、子どもや孫を碩田校区の学校に通わせるのかどうかを委員が意思表示し、それを協議会が参考にしてはどうかと思う。

○意見の集約は非常に難しいと思うので、事務局で20項目ほど設問を作り無記名で回収し、教育委員会がアンケートの段階ではこういう考えでした、こういう方向性でしたということを発表するのが良いのではないかと思う。

○防災、小中一貫教育、通学環境の3つの協議事項について特に多くの論議をしてきたので、例えば中島小校地であれば、○、△、×などの表を作り、各委員の個人的な考えを集計し、3つの協議項目について結果が分かるようにするのも1つの方法ではないかと思う。

○本日の協議の柱は委員の真意を出し合うことだが、まだ本音が出されていない感じを受けた。だから取りまとめに非常に苦労しているのだが、どういう形であれば各委員の本音が出されるのかが1番大事ではないかと思う。

○評価項目の軽重をどれだけ重視するかは、委員により考えが違うので、総合評価としてどこに建設するのを是とするのか、ここは避けたいと思っているのか、そのような設問項目を作らないと最終的な絞込みとはならないと思う。

第13回協議会で確認した事項

○意見の取りまとめ方について、会長・両副会長と事務局で協議を行い、取りまとめの案を次回の会議で示し、その内容について協議すること。

○第14回地域協議会は11月26日（火）の18：30～20：30に中島小学校体育館で、第15回地域協議会は12月17日（火）の18：30～20：30に住吉小学校体育館で開催すること。

小中一貫教育公開研究発表会が行われました

大分市では、子どもたちにとってよりよい教育環境の創造を目指し、市内全小中学校において、学校や地域の実情に応じた小中一貫教育を推進しています。

今年度、開校7年目を迎えた併設型小中一貫教育校の賀来小中学校をはじめ、連携型モデル校の碩田・吉野・竹中・佐賀関・神崎・野津原の6中学校区18校、連携型推進校の鶴崎・大在の2中学校区7校において、公開研究発表会を開催しています。

連携型小中一貫教育モデル校である碩田中学校区の公開研究発表会は、10月18日に中島小学校で行われ、地域協議会の委員をはじめ、地域や保護者の方々もたくさん参加されていました。

今年度は、研究テーマを「『伝え合う力』を育成するための言語活動」、サブテーマを「系統性を意識した授業実践」としています。

なお、碩田中学校区の小中一貫教育は、平成21年度から研究推進校として2年間、平成23年度からはモデル校として、通算5年目の研究に取り組んでいます。

※研究紀要より

多くのご意見やご示唆をいただきながら、これからの地域社会を担う碩田校区の児童生徒の学力・体力の向上をめざし、夢の実現のために今後も4校力を合わせ取り組んでまいります。ご出席いただきました地域や保護者の皆様方に心より感謝申し上げます。

＜編集後記＞

協議会では、協議会の様子を広くお知らせするため、定期的に協議会だよりを発刊しています。また、協議会における当日の資料や協議会の会議要旨などについては、市のホームページでも公開しています。

今後とも、協議会へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いします。

碩田中学校区適正配置地域協議会だより「第13号」

発　行：平成25年11月
発行者：碩田中学校区適正配置地域協議会
事務局：大分市教育委員会教育企画課
連絡先：（住所）　大分市荷揚町2－31
（TEL）　097-537-5903（直通）
（E-mail）kyoikukikaku@city.oita.oita.jp